

第20回 錦帯橋さくら守 活動実績

平成26年11月21日

1 活動日及び参加者名

11月10日(月) 09:30~13:00

正本(良) 正本(愛) 児玉(廣) 杉山 進藤 河本 小川 富田 児玉(加)
島崎 佃 田中 前田 以上合計 13名

2 実施作業

(1) 今月の活動予定、作業実施上の留意事項等の説明

(2) 作業内容

地区名	樹木番号	
	葛・きのこと類の除去 枯枝・病気枝の剪定	備考
錦帯橋下流域 道路沿い	同左地区の周辺 合計約20本	少人数ながら葛・菌糸類の除去・枯枝及び病気の枝の剪定作業を実施した。



今月の活動メンバー 朝のミーティング



カズラの除去



カズラの除去 下草の対処 天狗巣病の処分



カズラ・下草の除去



河畔での昼食弁当

3 今月の気になる木

並木のさくら、庭園内のさくらは車の往来や人の踏圧で地面が固められる。また堤防や河原のさくらは下草や周囲の樹木に日照を妨げられ特にカズラが巻きつき幹を絞め上げている。植物にとってはどちらも生育の環境を悪くするものであり人の手を入れる必要がある。

本日実施した堤防沿いの地区はまさに藪に囲まれたところで、夏の間は蛇や毒虫の影響での安全を考慮し、当会としては手をつけられない所であった。下草の笹や不必要な雑木を刈り取り更に根元から巻き付いた蔓を除去すると枝ぶりもさっぱりとして立派なさくらとして見えるようになった。

今回処分したカズラは茎の直径が3cmほどの大きなものもあり幹に張り付いてまさに絞め上げている状態を感じた。茎の小さいうちに継続して処理することが必要であり、芽が伸び始めたころに管理者として処理するとともに秋から冬の間継続して実施する必要があると考える。

4 特異事項

昨年処分した同じ場所に大きな「猿のこしかけ」が着生していた。菌糸類は生きた幹にも寄生する。木が小さいうちは枝の剪定等の方法もあろうが特に古い樹木なると切除する方法はとれないので継続して観察し張り付いた枝も菌糸類も除去し続ける事が大切である。

ソメイヨシノ ならではの状況であろうが、朽ちた太い枝が折れて地面まで垂れ下がっていた。全部が折損しなかったのは一本の不定根がかろうじて繋がっていたからである。今回は周囲の状況を考慮し伐採したが継続監視しておれば気付いた可能性はある。古木を生かすためには早め早めの対策が必要であると感じた。

5 来月の予定

葉を落とした樹木はこれからしばらくの間休眠状態となる。この間にじっくり効く栄養を与えると春に咲く花の栄養源となる。

目立たな努力でより多くの花数をつけるよう 寒肥を実施する予定としている・

(1) 場 所 ロープウェイ駐車場 公園内

(2) 日 時 12月8日(月) 09:30~15:00